



クリスチャンパートナーズ

通信第 70 号

- ・発行日 / 2006 年 11 月 15 日
- ・事務局 / 〒422-8053
静岡県駿河区西中原 2 - 7 - 63 - 1001
草野計雄方
- ・郵便振替口座 / 00150 - 0 - 134994
- ・発行所 / クリスチャンパートナーズ
- ・Tel / Fax 054-283-9317
- ・e-mail / cnec-kk@mail.wbs.ne.jp
- ・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/

新しい歩みを

理事長 木ノ内一雄

この度、理事長に就任しました。よろしくお願いたします。

援助している子供たちに会うため、西カリマンタンのポンティアナックに行ったのは、もう 20 年も前の事です。当時の「通信」(第 3 号、1986 年 9 月)にも書きましたが、多くの中国系の人々が内陸から避難民となってこの地に押し寄せ、湿地帯に家を建てて生活していました。

電気も水道もなく、ランプで明かりをとり、雨水をかめに溜めて飲料水にしていました。子供たちが木で造られた通路で元気よく遊んでいましたが、小さな男子のほとんどは裸でした。幼児が手を差し伸べてくるのですが、おなかが膨れていたり皮膚病だったり、抱き上げるのに躊躇しました。

帰路のシンガポールのホテルで、自分がいかに恵まれた生活を送っているかを実感し、涙が止まりませんでした。今は西カリマンタンの人々の生活もずいぶん改善されたようですが、この経験が私のクリスチャン パートナーズの活動の原点にあると思います。

主イエスは「受けるより与える方が幸いである」と言われました(使徒言行録 20:35)。今回、私がクリスチャン パートナーズの理事長として立たされたのも、神の導きと信じております。微力ながら皆様と共に尽力して行きたいと思っております。



1986 年夏 木ノ内理事(当時)撮影



〔木ノ内理事長は、日本基督教団川越教会の牧師として多忙な日々を送っておられますが、クリスチャン パートナーズ創設時の理事であり、顧問としても長らく関わってこられました。草野理事長の後任に最もふさわしい方と理事会が懇望し、ようやく実現した次第です。和美夫人は引き続き理事としてご奉仕くださいます。〕

2006 年 9 月 25 日第 142 回理事会 前列左から草野理事・木ノ内理事長

奈須新監事・宮澤理事、後列左から木ノ内・庄司・鳥海・竹澤の各理事 (奈須監事のご挨拶は 3 ページにあります。)

国際評議会報告

～ マルタ島 (地中海) ～

理事 木ノ内和美

ほぼ2年に1回、パートナーズ インターナショナルの各国代表が集まって、互いの活動情報を交換し、より効果的に協力するための会議を行なっています。2002年のトルコ、04年のシドニーでの会議に続き、木ノ内和美理事にご出席いただきました。なお、草野理事は体調を案じて欠席されました。

10月14日から17日までマルタ島で開かれたパートナーズ インターナショナルの国際評議会に出席することが出来ました。今回は、夫妻で参加されたイギリス・カナダ・オーストラリアに加え、アメリカ・シンガポールの各代表、お世話役のマルタ人の牧師夫妻、それに私の計16人というまとまりやすい人数でした。

14日にマルタ島に着いた時は、カナダの代表ミッテラン夫妻と私の荷物が届かないというハプニングがあり、2日間不自由な思いをしましたが、幸い正式な会議が始まる直前にホテルまで届けられ、ほっとしました。その日は次々に到着されるメンバーと再会を喜び合ったりしているうちに夕食となり、一同晚餐の席に着きました。

翌日は、世話役のエドウィン夫妻の教会にそろって出席しました。小さなプロテスタントの教会は、地元の方々と私たちで一杯になりました。エドウィン氏の説教に続き、ギターによる賛美がなされ、主任牧師の説教を、英語の通訳付きのマルタ語で伺いました。その方は会議の2日間、礼拝を受け持たれました。昼食後、エドウィン氏の案内で島内を約2時間半、見て回りました。

マルタ島は地中海の小さい独立国です。眼下に広がる真っ青な海に映える肌色のレンガ造りの古い街並み、海にはそれと対照的な豪華客船が浮かび、一同思わず息を呑みました。使徒パウロが囚人の身でローマに連行される途上、難破し辿り着いたのがこの島ですが、それを記念して建てられたパウロの碑をかなたに臨むことができました。十字軍でも知られ、随所に古い教会が立っており、住民のほとんどがカトリックだそうです。新鮮な魚や果物の並ぶ市場でマルタ人の生活を垣間見た後、サイレントシティと呼ばれる車が入れないくらいの狭い石畳の町を案内していただきました。



会議参加者一同 前列右から4人目、木ノ内理事



サイレントシティの石畳

家々に咲いている色鮮やかな草花が、背後の海によくマッチしていました。

和やかな晚餐後、会議室に移動し、議長のローズ氏の挨拶がありました。この会議は10年先を見据えた未来志向にしたい、との並々ならぬ決意が感じられました。

翌日は朝から夕方まで、今後のパートナーズのあり方についてディスカッションに時間が割かれました。パートナーズ発足当初の基本概念を皆で確認し、21世紀にふさわしい協力体制を築くにはどのようにしたらよいかということに活発な意見が出されました。情報を互いに交換し、協力し合う体制があって初めて、パートナーズの存在意義があるのだということが再確認できたと思います。

昼食の前にアメリカのルイス氏が、その時は重態であったフィンリー師の遺言ともいえる手紙を読み上げてくださいました。この手紙は草野理事の懇望を受けて、ルース夫人が同師の言葉をメールで送って

くださったものを、出席者にお配りするようにと私が託されたものでした。一同、フィンリー師の言葉を噛み締め、祈りを合わせました。

夕食後は、ゲストスピーカーであるスエーデン人のリートナン氏からシベリアでの働きについての報告を聞きました。シベリアは、イギリスが1年前に中央アジア・コーカサス・トルコなどに加えて新しく援助を始めたところですが、極寒の地であるため伝道に携わる人たちを支える防寒服・スノーブーツなどの物品面での援助も欠かせないとのことでした。

翌日も前日に引き続き話し合いがもたれました。そして、昼食を終えた頃、ようやく各国の報告になったのですが、私は仕事の都合で一足早く帰国したため、オーストラリアのヘンゲル女史の報告しか聞くことができませんでした。ヘンゲル女史は

約半年前に代表に就任し、今回が初めての参加でした。インドネシア・インドに加え、アフリカ諸国にも積極的に援助していること、またすでに自身の後継者も意中に置き、今後の計画を進めている様子を話してくださいました。そして、私も日本からの報告として、コンピュータを使って発足から現在までの経過・活動報告・新理事長および理事の紹介を無事終了、中座するオーストラリアの理事長トマス夫妻と私のための祈りに送られて、会場を後にしました。



木ノ内理事とトマスさん（オーストラリアの理事長夫人）

今回の会議は、皆がパートナーズの意義を再確認し、各国団体の結束を深めることができ、とても有意義でした。ご支援、ご加禱ありがとうございました。

アレンB・フィンリー師が10月30日に死去されました。パートナーズ インターナショナルの総裁として、長い間、開発途上国のクリスチャンとともに歩んでこられた同師は、旅の途上、たびたび日本に立ち寄られました。お若い頃アメリカで、FOCUSという留学生の世話をする団体で働いておられた同師を慕って、元留学生たちが来日の折々に夫妻を囲む集いを開催し、それを契機にクリスチャン パートナーズの設立準備が進められ、1984年11月に正式に発足したものです。次号に追悼文を掲載する予定です。 理事 宮澤玲子

ご挨拶

奈須輝美

8月に理事の草野計雄様から監事のご依頼を受け、私に出来ることならとお引き受けいたしました。私は前理事(現顧問)の松本繁雄様ご夫妻と20年余り親交を深めさせていただいており、約10年前に草野様をご紹介いただき、里親会員になりました。去る9月25日、初めて理事会に出席し理事の方々をご紹介いただきました。皆様のクリスチャン パートナーズへの熱意に心より敬意を表します。

私は、32年前に日本赤十字社医療センター小児病棟で、15年前に東京都済生会中央病院成人病棟で、9年前に東京都立広尾病院小児病棟でボランティア活動を始めて組織を作り、以来代表を務めております。今後も三病院のボランティア活動をメンバーの皆さんと楽しく、仲良く続けていくつもりです。

今後、監事としてクリスチャン パートナーズのお役に立つように努力いたしますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。

マルティヌス神学生の近況

高橋宣教師が奉仕しておられるアンジュンガンの ATI 神学校に学ぶマルティヌス兄から、支持者木ノ内夫妻宛に去る3月、便りが届きました（「通信」第61、67号参照）

《今春3年生のマルティヌス神学生の生活》

神学校での勉強のほかに毎週土・日曜にブンブンというところで「週末奉仕」があり、そこまで行くのが大変で、車で1時間の後、歩いて1時間かかります。しかし、その場所を神が私のために用意してくださったと信じて通っています。学内の活動ではキャンパス通信『セジャティ』の編集長をしています。「セジャティ」とは、純粹、真実、純正という意味です。学業とこの仕事の両立に苦労しながらも熱中しています。皆から



信頼されるというのはいはうれしいことですし、神からリーダーシップを取る機会を与えてくださったことを感謝し、将来の奉仕にこの経験が役に立つと確信しています。時々、自分が神の僕としてふさわしくないのではないかと不安を感じることもありますが、私の弱点を神はよくご存知で、いつも守り、励まし支えてくださいます。6月からは伝道実習が始まり、学校から各地へ1年間派遣されます。派遣先はマルク州のマセヒで、

アンボンの近くですから、相当遠方です。

木の内夫妻の支援と祈りに深く感謝し、お人のために主のお加護を祈っています。

(以上は、稲葉さんが訳して下さったマルティヌス兄の手紙の要約です。)



インマヌエル中学校奨学生の証

僕はブディヤント、1年A組です。1993年4月30日にウジュンクチャンで生まれました。プロテスタントです。将来の夢は医者になる事です。趣味はバレーボール。インマヌエル中学校に入学できて、授業を楽しく受けられることを神様に感謝しています。皆様のご支援を感謝します。

僕はマルクス、(写真が送られてきませんでした)1年A組です。1992年11月8日にセイダウンで生まれました。クリスチャンです。歌を歌うことが好きです。家から小遣いを送ってもらっていますが、家庭の経済状態の安定を祈っています。皆様のご支援に感謝します。

(第69号と70号に、今年新しく奨学生になった4名をご紹介します。昨年度から継続して奨学金を受けている13名は、第64、66、67、68号でご紹介しました。その内67号に出たトーマスとエルヴィナ ヴィヴィリアナ、68号のテルナ ティナワティとジェレミア アディライは卒業しました。1人年額6000円です。)

【理事会報告】第142回理事会は2006年9月25日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2006年7・8月度会計報告承認。「通信」第69号は7月30日発行済。第70号は11月中旬発行予定。現在SAC里子62名、里親61名。里親会員奈須輝美氏、新監事として出席。ガーナのアモス・パンマリグ師の教育プロジェクト紹介、支援決定。10月15~17日マルタ島での国際評議会には木ノ内和美・草野理事出席。第142回理事会は2006年11月20日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記> 今年はいは里子たちの手紙もクリスマスカードもまだ到着していないので、心配しています。クリスチャン パートナーズ設立の原動力で、いつも祈りのうちに支えてくださったフィンリー師を天にお送りし、寂しくなりました。ご遺族の上に主の慰めをお祈りします。向寒の折、お大事に。

Merry Christmas & a Happy New Year 鳥海百合子